



題字 井口 文章
再刊 第419号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：春季球技大会決勝戦の様子をお届け！
秋季大会に向けて
二面：MVPが語る球技大会の秘訣とは？
各種目選手の喜びの声を聞く

3日間 破天荒 曇天

春季球技大会閉幕

5月30日(火)から6月2日(木)までの3日間、春季球技大会が開催された。雨天による順延や試合会場の変更もありながら、久しぶりにコロナ禍以前と同じ規模で開催されたこともあり、大きな盛り上がりを見せた。今号では春季球技大会3日目に行われた決勝戦の様子をお届けする。(編集部共同取材)

サッカー 2I対3M

前半はヘディングシュートが飛び交うが、ゴールキーパーの好捕が光り、両チームゴールを決められない。後半に2Iが続けてシュートが放たれたが、これもプロットされる。試合は延長戦へ。延長前半、2Iがパスをつないでゴールを決め、ついに均衡を破る。しかし、延長後半に2Iの選手が怪我を負い、試合は一時中断された。試合が再開されると、3Mがコーナーキックで最後の攻撃



巧みなボールさばきでゴールを目指す



ゴール際の攻防

3G対3Cの対決となった男子バスケットボールの決勝は白熱した戦いとなった。開始早々3Cは攻め込み、先制点を奪う。しかし3Gも負けず、2Iがシュートを決める。さらに3Gは、その後のフリースローのリバウンドをゴールに乗った3Gはその後も追加点を決める。対する3Cはその後2点を返すも、第1ピリオドは13対4で終わった。第2ピリオドに入っても3

コロナを越えて楽しむ球技大会

球技大会実行委員長の野地慶人さん(3G)に今回の春季球技大会の反省や秋球技大会の目標について話を聞いた。野地さんは今回の球技大会を振り返っての感想を「楽しかったです」と嬉しそうに話す。「新型コロナウイルスによる制限なく開催できたので、やはり昨年よりも、試合の一つ一つが盛り上がりが見え、嬉しそうです」と感想を語る。

今回の大会の運営に関して「コロナウイルスの影響による制限がない状態で行う初めての学校行事でしたが、大きなミスもなく無事終わってよかったです。自分の中では大成功だと思っています」とこやかに話してくれた。



秋大会への課題を語る

また、秋の球技大会については「実行委員の3年生は運営の裏方にまわり、2年生を中心として活動していく大会になると思います」と話したうえで「今回の経験を糧に、1、2年生のサポートをするという形で大会に貢献することが出来るようにしていきたいです」と意気込みを聞かされた。



迫力の空中戦

Gの猛攻は続き、終了時点で24対8と大差がついた。勝負の第3ピリオドで3Cは3ポイントシュートを決めるなど、最後まで攻める姿勢を貫き続けたが3Gの勢いは止まることがなく32対13で3Gが優勝を決めた。

敵味方なく円陣を組んでからスタートした3D対3Aの決勝戦。第1セットは3Aが先制したが、すぐに同点に。激しいネット際の攻防やサーブで乱す作戦などが繰り返されるが、点差がつかなくなった。第1セットは3Dが鋭いスパイクで先取した。合間にネット越しに選手同士でハイタッチをしようするような姿勢も見られた。

また、秋の球技大会については「実行委員の3年生は運営の裏方にまわり、2年生を中心として活動していく大会になると思います」と話したうえで「今回の経験を糧に、1、2年生のサポートをするという形で大会に貢献することが出来るようにしていきたいです」と意気込みを聞かされた。

試合開始直後からボールが激しく飛び交う展開が繰り返された。試合終了間際に3Eがダメ押し

3E対3Bの女子バスケットボール決勝戦は高い技術とチームワークのぶつかり合いだった。お互いに激しいボールの奪い合いをして、2対4で3Bがリードした状態で第1ピリオドを終える。しかし続く第2ピリオドでは3Eが逆襲を開始。次々とシュートを決めて3Bを追い詰めた。3Eのチームワークと正確なシュートで12対7と逆転した。

1人当てる。しかし2Kも対抗して少しずつ当てていき3Aを徐々に追い詰めていき、3Aも果敢に攻めを行うが、2Kの猛攻には耐えられず、最後の1人を当てられ2Kが決勝戦を制した。

鋭いボールを投げる

勝戦。まず試合を動かしたのは2K。先制した勢いによって素早い連携で3Aに5者連続でボールを当てる。しかし3Aも負けじと対抗し、3人連続で当てると反撃を見せた。しかしながら、3Aは勢いにのった2Kの猛攻を止めることができず、追加で1人を当てる。第1セットは2Kが先取した。ハーフタイムの間、両クラスの生徒たちは円陣を組み、士気を高めていた。円陣で両者のボルテージが高まって迎えた第2セットでは、開始直後に2Kが初球で

第2セットも追い付き、追い越されと手に汗握る試合展開となった。3Hが得意のス

3Kの先制点から始まった女子バレーボール決勝。この試合は両者ともにしのぎを削った。お互いに激しいボールの奪い合いをして、2対4で3Bがリードした状態で第1ピリオドを終える。しかし続く第2ピリオドでは3Eが逆襲を開始。次々とシュートを決めて3Bを追い詰めた。3Eのチームワークと正確なシュートで12対7と逆転した。

必死にシュートをねらう

3Hが得意のス

秋は落とし物ゼロを目指す

落とし物の「価値」に目を向けよう
今回の球技大会を終えて、観客から審判への野次や試合中の事故の多発など、秋季大会で改善すべき課題が明らかになった。その一つは、以前から問題とされてきた落とし物の量だ。球技大会期間中は、普段の学校生活と比べて多くの落とし物が回収される。この3日間で回収された落とし物はペットボトルやタオル、水筒、ゼッケン、セーター、靴などがあり、合計50点が未だに職員室前に置かれている。これらの落とし物の合計金額は推定、約5万円分(編集部計)。もし持ち主が見つからなかった場合、落とし物は廃棄される。私たちが今使っている物は、自分で稼いだお金で購入しているわけではない。物の管理への意識を変え、大切に扱うべきではないだろうか。(鋼)

より良い秋球技大会に向けて
閉会式では、結果発表と表彰が行われた。今回は1Gと2Kが学年優勝、3Aが総合優勝を勝ち取った。阿部一朗校長先生は天候が心配された中、無事に球技大会を開催できたことへの喜びの他に、競技中に審判への野次があったことややげ人が多かったことを反省点として挙げ、秋季大会で改善しようと呼びかけた。最後に「コロナ禍の生活を振り返ると、学校生活を送る上で、行事ができることをありがたく思います。皆さんには『当たり前』に感謝して過ごしてほしいです」と語ってくれた。

実行委員長の野地慶人さん(3G)は「一部活を引退した3年生が増えた中、この球技大会では全力で取り組むことの大切さを改めて感じました」と球技大会の感想を話し「1、2年生の皆さんも全力で取り組むことを大切にしてください」とメッセージを送った。

むらさき草
現代文の授業で、入学して初めて読んだ文章があります。川上弘美の「境目」(『あるようなないような』より)です。川上は、境目を「認識のためにつくられたもの」として定義し、人間が恣意的に定めたと述べています。この文章を読んだとき、卒業という境目を前に、境目についてのむらさき草を書こうと思いましたが、今、ペンを走らせています。境目―それは、人が世界を支配する証―つまり、もとの自然界には存在しないものである。人は自然界に線を引く。恣意的に、人為的に。境目とは便利なものだ。時の流れを日ごとに分かたつカレンダリのように、わかりやすく世界を区切ってゆく。しかし、同時に人はそれに囚われる。境目を意識し過ぎるあまり、カレンダリに書いた通りに追われ、追いつかなくなると、回復不能な傷を負ってしまう。境目は牙をむく人に逆らって―人は、自分が作つたはずの境目に支配される。はるか古代から積み重なってきた境目の記憶は、現代に溢れた。そして今、私たちは境目の中に生きています。現代の世界は無数の境目で満ち満ちている。「朝」も「日」も「卒業」も、どれもみんな境目だ。勉強時間とそれ以外の時間の区切りも境目であると言える。一日の中で自分で勉強時間を設定し、自ら学習することが、境目を支配することである。私たちは普段、学校の中で勉強時間を決められているが、自ら学習の時間を設定して学習するなど、能動的に学ぶ姿勢が大切だ。グラデーションに彩られた世界は、線を引かれることで個々の色を確定させていく。幾星霜を経て区切られた「それ」は極限まで自然に近づいてきた。だから私たちは「それ」を自然と同じものとして見なし生活している。境目が意識されなくなってきたのである。境目は諸刃の剣だ。使い手によって、利器にも鈍器にも変貌する。だからこそ私たちは、その境目を意識しうまく利用することで「境目に支配」されるのではなく「境目を支配」しなければならない。(金)

2Hvs2F
1Gvs3A
3Mvs2D
3Bvs1J
3Gvs3J
3Avs3M



白熱した3位決定戦

# 2023春球大MVP特集

春季球技大会を白熱させ、各競技で様々な戦いを見せた錦城生。その中でも各種目で一際活躍し、MVPに選ばれた選手たち取材した。6人のMVPたちはそれぞれの試合や練習を振り返り、感想や勝利の秘訣を教えてくれた。(編集部共同取材)

## サッカー 細川昇吾さん(2I)



秋季大会での2連覇を狙う

サッカーのMVPに選ばれたのは細川昇吾さん(2I)。細川さんは自分がMVPになるとは思っていなかったそうで、MVPになったと聞いたときは驚いたそうだ。MVPに選ばれたことについて細川さんは「チームメートのみんなが頑張ってくれたおかげでこの結果があると思います。なので、MVPはみんなだと思います」と話した。細川さんが特に印象に残っている試合は1年J組との試合で「2日目で、負けたら終わりという状況だったのですが、PKまでもつれ込んだため負けてしまうかもしれないと思って焦りました」と試合を振り返る。

また、試合では3年生と対戦することが多かったそうで「3年生は体格が良い人や高い技術をもつ人が多く、威圧感を感じました」と語る。細川さんのクラスでは球技大会に向けて昼休みに練習を行っていたという。細川さんは「一緒にたくさん練習してくれて本当にありがとうございました」と仲間へ感謝を述べ、応援してくれた人へ「試合中も応援の声が聞こえて、とても力になりました。次の球技大会でも応援してください」とメッセージを送った。秋季球技大会に向けて2連覇を目指したいと意気込んだ。(紫)

## 男子バレー 原田泰地さん(3D)

男子バレーボールMVPに選ばれたのは、原田泰地さん(3D)だ。MVPになった感想を聞くと「キャプテンを務める今回の球技大会で優勝して、MVPも取れたので悔いがないと思っています」と話す。原田さんは昨年度の球技大会でバレーボールに出場しており、その際は3位でとても悔しい思いをしたことから、優勝するまでは絶対にこの競技に出場し続けようとしていたという。

決勝戦で対峙した3Aとは昼休みにバレーボールをして遊ぶなど、普段から仲がとても良く、試合前には一緒に円陣を組むなど珍しい光景が見られた。試合で工夫したことについては、レシーブが得意ではない人のカバーを得意な人がすること、トスを打つ人を決めていたことの2点を挙げてくれた。

試合中には点を決めるときにクラスメートから『漢』の声援がコート中に響いた。3Dは錦城高校で唯一の男子のみのクラス。「クラス替えをしても男同士なので、すぐに仲良くなることができました」とうれしそうに話してくれた。最後に原田さんはクラスメートに向けて「応援してくれてありがとう」と感謝の意を示した。(歩)



昨年のリベンジを果たした

## 男子バスケ 板谷将一さん(3G)

男子バスケットボールでMVPに選出されたのは板谷将一さん(3G)。3Gの男子バスケットボールのチームは優勝に向けて、昼休みに集まって練習を重ねていたという。小学校、中学校を通じてバスケットボールをしていた板谷さんは、練習内で自身の経験を活かし、チームのメンバーにプレーのコツを教えるチームのレベルを高めていったそうだ。また板谷さんはチームの強みはチーム内にバレーボール経験者が多くおり、リバウンドを多くとることができるところだと語る。これを武器に球技大会当日の試合では、板谷さんがシュートを打つ回数を増やしてそのリバウンドを他のメンバーに取ってもらうという作戦でプレーすることを意識し、得点のチャンスを多く作れるようにしたという。

MVPを獲得したことについて板谷さんは「今までの高校生活の中で一番うれしいです。クラスの人やチームメートには「お前のおかげで勝った。ありがとう」と声をかけてもらいましたが、チームメートも一生懸命プレーしてくれたからこそ成すことができたことなので、決して1人では成しえなかった優勝だと思います」とチームへの感謝を笑顔で話してくれた。(鋼)



チームメートへの感謝を話す

## ドッジボール 大島遥さん(2K)

女子ドッジボールMVPの大島遥さん(2K)に話を聞いた。大島さんは「かなりギリギリの試合でした。だからこそ、勝てたのでとても感動しました」と優勝した感想を語る。勝因については『チームメートの協力』を挙げ、肩が強かったり投げるのが得意だったりする人がボールを投げ、他の人は投げられたボールを避けることに集中するなど、役割分担を徹底させたそうだ。さらに、男子の応援による力も大きく、試合前の円陣などでとても力をもらえたと嬉しそうに話す。

MVPに選ばれた理由については、ボールのコントロールが上手にできた結果、多くの相手にボールを当てることができたからだと考えているという。MVPについて「1年生の春・秋季球技大会でもMVPに選ばれたので、今回三冠を達成できてとてもうれしいです。次の秋季球技大会でも、優勝とMVPを目指して頑張りたいです」と話してくれた。最後に、クラスメートに対して「今回の優勝は役割分担や応援など、みんなで協力できたから勝ち取れたものです。皆さん本当にありがとうございました!」と感謝の気持ちを伝えた。(月)



驚異の3冠を達成した

## 女子バレー 宇多村桂さん(3H)



的確にボールを繋いで優勝を勝ち取った

女子バレーボールで見事MVPに選ばれた宇多村桂さん(3H)に、MVPになってみての感想を尋ねると「自分の実力だけではなく、チーム全員の協力があったからこそ結果だと思います」と今までの試合を振り返った。

3Hは昨年とほぼ同じメンバー。昨年の球技大会での宇多村さんのクラスは女子バレーボールに出場したものの、準優勝に終わった。だからこそ「今回の優勝はとても嬉しいものになりました」と語る。

秋の球技大会に向けては「得意な人だけが動くのではなく、チーム全員でさらに一致団結することを意識していきたいです」と、次回の大会に向けての意欲も見せてくれた。

最後に「ほかの競技が負けてしまった分、大会で勝ち上がるにつれて、クラスの応援がとても盛り上がり、そのおかげでチームメートと決勝戦まで頑張ろうと思うことができました」と、クラスメートに向けて感謝の気持ちを伝えた。(楳)

## 女子バスケ 山口みれ菜さん(3E)

女子バスケットボールのMVPに輝いた山口みれ菜さん(3E)は優勝できたことについて「応援してくれたクラスメートや、他のクラスの人達の期待に応えることが出来てとても嬉しいです」と話してくれた。

また、怪我で試合に出場することができなかったキャプテンと一緒に表彰台に登りたいという気持ちがあったことも、頑張ることができた理由だそうだ。

山口さんが大会中に意識していたことはチームメートのメンタルケアだという。バスケットボールはその人のメンタルによってゴールが決まる時と決まらない時があるため、自分自身だけではなくチームメートの士気もあげて心掛けたそうだ。試合中のプレーについては「もっと改善すべきところが多かったため、秋の球技大会ではもっと良いプレーが出来るように頑張りたいです」と振り返る。

そして、応援してくれたたくさんの人や会場準備や審判をしてくれた部員には、「感謝の気持ちでいっぱいです」と話してくれた。(布)



Tシャツのポーズで笑顔を見せる

学年	男子				女子		得点
	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	
1A	○	×	△	×	×	×	4
1B	○	×	△	×	×	×	8
1C	×	×	×	×	×	×	2
1D	×	×	×	×	×	×	9
1E	○	×	×	×	×	×	5
1F	○	×	×	×	×	×	6
1G	○	×	○	×	×	×	21
1H	○	×	○	×	×	×	11
1I	×	×	×	×	×	×	7
1J	○	×	×	×	×	×	16
1K	×	×	×	×	×	×	4
1L	○	×	×	×	×	×	6
2A	○	×	×	×	×	×	13
2B	×	×	×	×	×	×	12
2C	×	×	×	×	×	×	10
2D	○	×	×	×	×	×	21
2E	○	×	×	×	×	×	12
2F	×	×	×	×	×	×	13
2G	○	×	×	×	×	×	17
2H	×	×	×	×	×	×	23
2I	○	×	×	×	×	×	20
2J	×	×	×	×	×	×	9
2K	×	×	×	×	×	×	27
2L	×	×	×	×	×	×	5

・本戦勝利は3点「○」、敗者復活ブロック勝利は2点「△」  
・ABブロック決勝の勝利は4点「◎」、優勝は5点「☆」  
・3位決定戦の勝利は2点「▲」、準3位決定戦は0点「■」

学年	男子				女子		得点
	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	
3A	○	○	○	○	○	○	40
3B	○	○	○	○	○	○	30
3C	×	×	×	×	×	×	18
3D	○	○	○	○	○	○	27
3E	×	×	×	×	×	×	21
3F	○	×	×	×	×	×	8
3G	×	×	×	×	×	×	28
3H	×	×	×	×	×	×	30
3I	○	×	×	×	×	×	15
3J	○	×	×	×	×	×	27
3K	○	×	×	×	×	×	22
3L	○	×	×	×	×	×	15
3M	○	○	○	○	○	○	33
合計	31	25	18	28	24	21	

### 春季球技大会総合結果

学年優勝 1年G組・2年K組  
総合優勝 3年A組